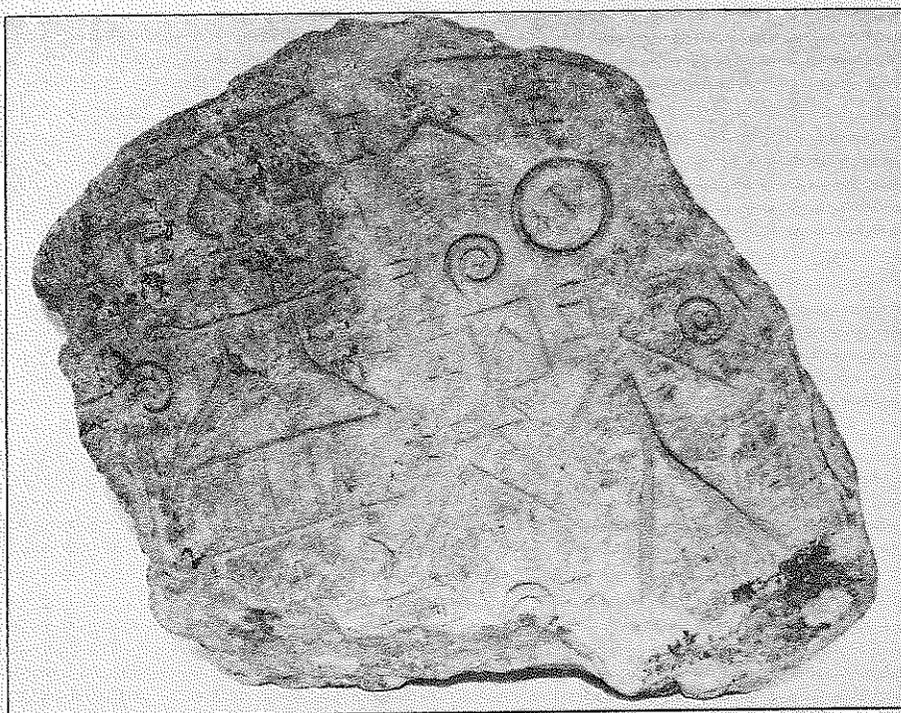


沖縄県立博物館年報



1975

No. 8

目 次

序	館長 外間 正幸
博物館日誌	1
博物館事業	4
1. 展示活動	4
常設展	4
特別展	6
展示会一覧表	11
2. 普及活動	12
博物館文化講座	12
来館者数(年度別統計, 月別統計)	17
来館学校団体名	18
浦添王子朝熹書扁額「徳馨」の 受け入れについて	22
博物館資料	23
1. 所蔵資料現在高	23
2. 新収蔵資料(購入, 寄贈)	23
3. 主なる新収蔵品写真	26
4. 新収蔵図書(購入, 寄贈)	29

序

昨年から二階の増築により、展示室が従来の二倍になったので、かねてから念願の考古や民俗、陶磁器の展示を充実させることが出来た。また、美術工芸もこれまでよりも、豊富に陳列できた。一方、昨年は大阪の天満宮をはじめ多くの方々から文化財の寄贈を受け、また、工芸品や樹木の苗木等の寄附もあり、館の内外が一段と充実した。

博物館はたえず地域の人々と密着し、皆が気持ちよく観覧でき、また社会教育の場としての態勢を常に整えておかなければならない。そのために、展示も観覧者に物を考えさせ、かつ、先人の暮らしや沖縄の自然がよくわかるように心がけている。

49年度から毎月催している文化講座も好評を博している。また今年からは第一室を歴史的展示法にきり替え、沖縄の大古の地質状況から、明治までの沖縄の歴史が、観覧者に容易に分るように、各時代の資料をパネルとともに展示した。特に沖縄各地から採集した鉱物や化石、サンゴ等を展示し、あるいは自然史系の特別展等も催して、総合博物館にふさわしいように、学芸員が力をいれている。

今年から「館報」を改めて「年報」とし、また研究及び調査報告を分離して「博物館紀要」とした。

昭和50年6月20日

沖縄県立博物館長

外 間 正 幸

博物館日誌

(1974年1月～1975年3月)

1974年 (昭和49年)

- 1月 8日 駐日フランス大使一行来館
- 1月11日 駐車場工事完了
- 1月29日 中城村から民俗資料(厨子甕)2点受入れる
- 1月30日 京都国立近代美術館長河北倫明氏一行 美術工芸品借用交渉のため来館
- 1月30日 川崎市の高橋君江氏より漆器五段重箱2点の寄贈を受ける
- 2月 9日 北中城村から民俗資料(石厨子)5点受入れる
- 2月14日 展観準備のため臨時閉館(22日まで)
- 2月15日 県主催で長野県にて開催の「沖縄の物産と観光展」へ文化財写真パネル54点出展
- 2月23日 2階増築記念「考古民俗展」(10月23日まで、第3・4室)開場
「沖縄近代物故美術家展」(3月18日まで、第2室)開場
2階第5室に陶磁器を分離して開場
- 2月26日 案内用リーフレット1万部発行
- 3月15日 エキスポランド主催の「大沖縄展」へ美術工芸品及び写真パネル62点貸出す
(6月10日返納)
- 3月29日 伝自了筆「李白観瀑の図」及び「琉球八景」のうち1枚、琉球漆器4点の購入が許可される
- 4月 5日 玉陵修理事務所へ「玉陵写真パネル」19点貸出す
- 4月12日 駐日フィンランド大使一行来館
- 4月13日 鹿児島県の吉松軍八氏から田名宗経作「龍頭観音像」(木彫)の寄贈を受ける
- 4月17日 那覇市安謝の無縁古墓から凝灰岩制石厨子1基、壺形8基出土、那覇市を通じその受入作業をなす
- 4月23日 与那原町の比嘉定寛氏(故人)の遺志により建築資料1点寄贈を受ける
- 5月18日 千葉県在住の南川仁博氏から「楚南学源画像」と「南川(楚南)家 家譜」の寄贈を受ける
- 5月25日 第1回博物館文化講座
演題「貝塚の話」講師 新田重清学芸員
- 6月10日 自然史系部門を設置することになり、学芸員1人ふえる
- 6月 5日 「新収蔵品紹介展」開場(第2展示室、7月21日まで)
- 6月 7日 京都市在住の伊藤勝一氏より漆器1点の寄贈を受ける
- 6月 8日 小坂総務長官来館
- 6月12日 琉大構内から石獅子の残欠収納す

- 6月17日 佐敷村伊原区民から「荒焼三耳壺」他39点の寄贈を受ける
- 6月29日 第2回博物館文化講座
演題 「やきもの話」、講師 宮城 篤正学芸員
- 7月1日 くんじょう作業と展示替えのため閉館（7月8日まで）
- 7月10日 博物館23年勤続で退職した用務員与儀ウシへ館長から感謝状贈呈
- 7月20日 収蔵庫（漆器）棚取付工事
- 7月23日 第3回博物館文化講座
演題「織物のはなし」、講師 琉大助教授 大城 志津子氏
- 7月27日 石垣市立八重山博物館「50年前の沖縄」展へ文化財関係写真パネル157枚貸出す
（10月9日返納）
- 8月6日 「稲福遺跡と原始琉球展」開場（第2展示室、8月25日まで）
- 8月6日 黒塗螺鈿机購入
- 8月6日 琉球美女図 花鳥図購入
- 8月7日 京都国立近代美術館へ美術工芸品43点貸出す（12月11日返納）
- 8月7日 那覇市徳村千代氏から「芭蕉布格子着物」他5点の寄贈を受入れる
- 8月22日 沖縄県立図書館から、「紅型衣裳」、「帯」各1点、「かんざし」18点、「帕」
3点の寄託を受ける
- 8月27日 周煌書軸1点大阪より購入
- 8月31日 第4回博物館文化講座
演題 「サンゴ礁の話」 講師 琉球大学教授 山里 清氏
- 9月11日 1階倉庫の陶磁器保存棚作成作業完了
- 9月19日 「陸産員と淡水産員」展開場（第2展示室、29日まで）
- 9月19日 地下倉庫の収蔵棚取付工事完了
- 9月19日 漆器「朱塗沈金蝶文様文庫」他4点修理完了
- 9月27日 博物館協議会開催
- 9月28日 第5回博物館文化講座
演題 「陸産員の話」 講師 知念高校教諭 知念 盛俊氏
- 9月28日 2階ロビー展示用レール取付工事完了
- 10月19日 案内用リーフレット1万部発行
- 10月22日 参議院議員 黒住忠行氏 大阪天満宮所蔵扁額の寄贈の件で来館
- 10月26日 第6回博物館文化講座
演題 「琉歌の話」 講師 琉球大学助教授 池宮 正治氏
- 11月1日 沖縄県美術・工芸展覧会（第2室、第3室、2階ロビー）
- 11月1日 県指定文化財「蔡鐸本中山世譜」7巻、「中山世鑑」6巻修理完了（文化課予算）
- 11月8日 池上修理室長池上幸二郎氏により、重文「おもしろさうし」（22巻）修理のため
東京へ
- 11月9日 中城村の新垣盛光氏より、民俗資料「獅子頭」の寄贈を受ける

- 11月14日 北谷村の高宮城実盛氏から刻画石2点寄贈受ける
- 11月18日 御絵図帳2点修理完了
- 11月26日 びんがた風呂敷と型紙(第3室, 12月26日まで)
- 11月27日 大阪天満宮から浦添王子朝熹(尚元魯)書になる「徳馨」の扁額が寄贈され, その贈呈式。大阪から天満宮宮司 寺井種茂氏, 大阪市立博物館長 平山敏治郎氏, 参議院議員 黒住忠行氏出席
- 11月29日 糸満市摩文仁の平昌博物館から全資料受入れる
- 11月30日 第7回博物館文化講座
演題 「漆器の話」 講師 漆芸家 前田孝允氏
- 12月 2日 北谷村の牧野佐市氏から, 考古資料「二段式石臼」の寄贈を受ける
- 12月 4日 那覇市の又吉真栄氏から, 楽器「琉球三味線」各型7点ほか5点の寄贈を受ける
- 12月 5日 大阪在住の仲本照永氏から屋形厨子甕他11点の寄贈を受ける
- 12月14日 韓国国立中央博物館長崔淳雨氏, 韓国美術協会理事長金世中氏他5名来館
- 12月16日 東京在住の国吉良一氏から壺型厨子甕19個の寄贈を受ける
- 12月21日 第8回博物館文化講座
演題 「琉球舞踊の話」 講師 県文化課専門員 宜保 栄治郎氏
- 12月24日 陶器「抱瓶」他13点 修理完了
- 12月24日 くんじょう準備のため閉館
- 12月28日 御用納め
- 1975年(昭和50年)
- 1月 4日 御用始め 展示替のため閉館(9日まで)
- 1月10日 特別展「沖縄の石彫」展を開場(第2展示室, 2月2日まで)
- 1月18日 植木開発庁長官来館
- 1月19日 第1室を従来の美術工芸展から自然・歴史展示に改め, 本日開場
- 1月22日 渡嘉敷兼副書軸修理完了
- 1月25日 第9回博物館文化講座
講題 「石材彫刻の話」 講師 外間 正幸館長
- 2月22日 第10回博物館文化講座
演題 「化石の話」 講師 大城 逸朗学芸員
- 2月23日 徳川黎明会専務理事徳川義宣氏, 漆器調査のため来館
- 3月12日 進貢船模型受入れ, 第1室に展示
- 3月25日 博物館協議会開催。辞令交付, 互選の結果, 会長 安次富長昭氏, 副会長 福地 暁昭氏に決まる
- 3月25日 県指定文化財「宮古大屋子へ与えた辞令書」修理完了(県文化課予算)
- 3月29日 第11回博物館文化講座
演題 「民具の話」 講師 上江洲 均学芸員
- 3月31日 県指定文化財, 漆器「黒塗螺鈿遊雁絵大文庫」他4点修理完了(県文化課予算)
- 3月31日 「沖縄県立博物館紀要」(第1号)発行

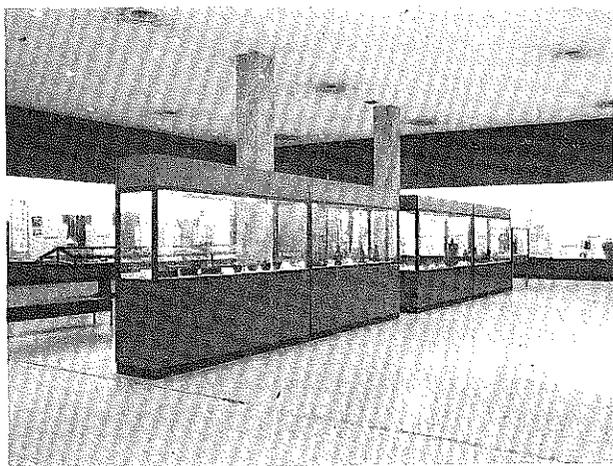
博物館事業

1. 展示活動

◎常設展 第1展示室(自然・歴史)

広さ462平方メートル

当館は総合博物館ではあるが、人員の不足や施設などの関係から従来まで主な展示室であった第1室は美術工芸を中心に展示してきた。昭和48年11月当博物館の二階増築に伴ない展示室が3室新たに増えたので、第1室では主に沖縄の古い地質年代から明治の琉球処分に到るまでの歴史の流れを追いつつ、展示する方針が決定した。



第1室展示風景

以下、壁ケース内の展示順序に従って項目を列記する。

①琉球列島の生いたち ②最初の住民 ③貝塚をのこした人々 ④先島文化の源流 ⑤農業の発展と支配者の出現 ⑥琉球王国の形成 ⑦薩摩侵入後の琉球王国 ⑧島津氏の侵入 ⑨新しい時代への対応 ⑩文芸の花ひらく ⑪農村の疲弊と農民層の分化 ⑫異国船のおとずれ ⑬琉球処分

以上のような項目による展示の流れであるが、その分野毎に実物、絵図、写真、年表、分布図などを展示説明をしてある。

なお、展示室中央には三角ケース(古文書などの歴史資料を展示)、高ケース(円覚寺の白象他工芸関係資料を展示)、進貢船模型などが展示されている。

この第1室で観客に沖縄の歴史の流れを理解していただいたあとで、第二室以後の展示室につながるという企画である。

◎常設展 第3展示室(美術工芸)

広さ265平方メートル

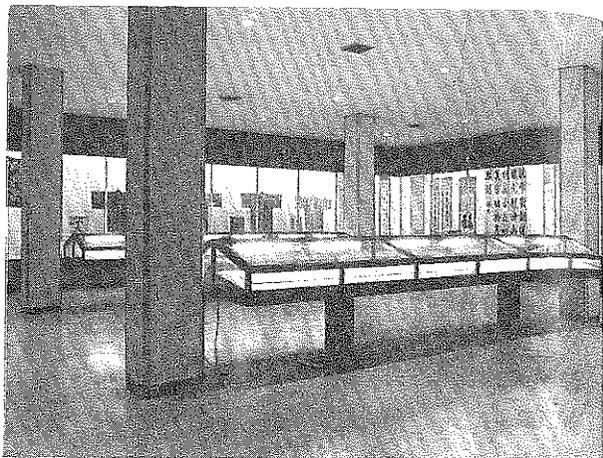
第三室は美術工芸の展示室である。当博物館の沿革史をみてもわかるが、焼け跡から収集したものに加えて、開館当時から最も重点をおいて収集して来たのが美術工芸品であった。とはいっても、戦争でほとんどの文化財を焼失してしまった地元沖縄では残っていた美術工芸品といえば実になぜかなものであった。

本土の古美術収集家や研究者たちによって戦前において収集、保存されてきた沖縄の美術工芸品を戦後あらたに買戻したり、またはご好意で寄贈を受けたものもある。当博物館の収蔵品のなかの美術工芸品はそのようなものが中心となっている。

さて、美術工芸（陶磁器を除く）の展示室である第三室の壁ケースにはまず①絵画、②漆器、③書跡（拓本も含む）、④紅型（着物ならびに裂地、型紙）、⑤織物（着物裂地など）ならびに御絵図帳の順序で展示してある。

また、展示室中央には二台の三角ケースをおいてあるが、そのなかには与那国ティサージと読谷山花織ティサージ、久米島紬裂地見本帳、書簡集、風俗画帳、木版画などが陳列されている。

内訳は、絵画14、書跡13、漆器14、染物14、織物11で、合計66点である。



第 3 室 展 示 風 景

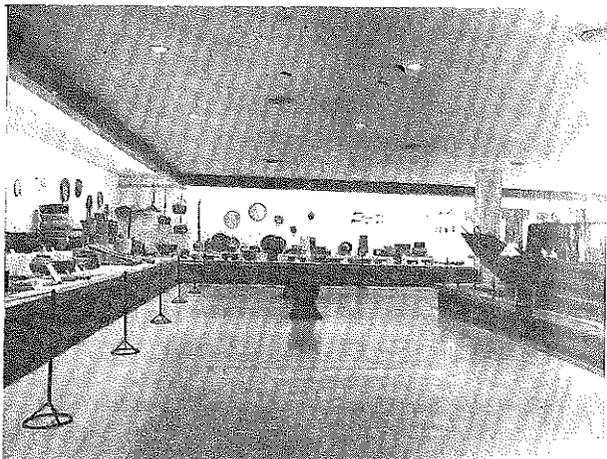
◎常設展 第4展示室（民 俗）

435平方メートル

昨年2月から民俗展示室を2階の第4室に定め、展示活動を行なっている。その後、展示のもよう替えをし、部屋の中においていた葬制具を、2階ロビーに移動し、ここをサバニ（舟）コーナーにした。

展示室には、右から順に農耕具・脱穀具、運搬具、畜産具、漁具、網漁具、笠、舟、家具、衣服、紡織具、調理具、飲食具、食品加工具、貯蔵具、住居、照明具を展示している。

2階ロビーには、厨子甕各種60点を展示しており、民俗資料としては総計600点が展示されている計算になる。ガラス戸は一切除いた開放展示である。壁面には理解をたすけるための写真やパネルを張り、展示品もできるだけ用途別にセット展示するように心掛けている。



第 4 室 展 示 風 景

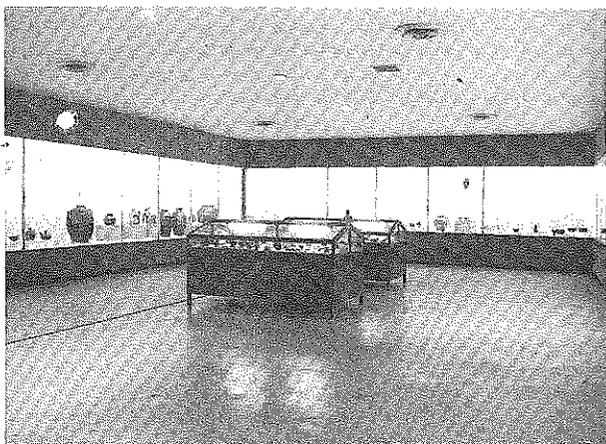
◎ 常設展 第5室（陶磁器）

170平方メートル

当博物館の2階増築完成後は第5室で陶磁器の常陳が出来るようになった。これまで第一室の一

隅を展示にあてていたが、スペースの関係と他とのつりあい等から大きさや点数などに制限されることがあった。その点は此度一気に解消された。

まず、第5室入口の壁面には丹地敏明氏撮影のカラー写真10枚を掲示し、やきものの製作場面を紹介すると共に、「窯跡分布図」によって古い時代の窯場の位置を示しておいた。写真と分布図の前面には平ケース3台おき、その中に各地から出土した中国製陶磁片（御物城出土、八重山名蔵海岸採集、浦添城出土）と首里烏堀瓦屋跡出土の瓦片、種子島の能野焼陶片を展示し、研究資料として役立つよう配慮した。



第5室展示風景

次に陳列室内では出来るだけ各分野にまたがっていろいろな種類の展示をするようにした。たとえば、壁面のケース内には土器、上焼、荒焼、バナリ焼、薩摩苗代川焼、シヤム南蛮甕、ルソン壺など各種を展示した。

展示室の中央には三角ケース2台をおいて壺川窯（湧出系）、古我知焼、知花焼、喜名焼などの各陶片を陳列してある。更には鎌倉芳太郎氏撮影の大正13年頃の壺屋風景とその仕事場の写真（4枚）は展示品の理解を深めるために出品した。壁ケースの壁面には仲村渠筑之へ与えた任命書と御用植木鉢下図などの研究資料と木彫鬼面、アンガマ面、弥勒面など雰囲気作りのために展示し割合に好評を得た。

以上のようにこれまでどちらかといえば、鑑賞面に重点をおいて展示してきたが、今後はそれに研究面をあわせもたせるような展示方法にしていきたいと思う。

◎ 特別展 沖縄近代物故美術家展

期 間 1974年（昭49）2月23日～3月17日

会 場 第二展示室

主 催 当博物館 後 援 沖縄タイムス社・琉球新報社

沖縄画壇はここ数年活気をみせ、中堅作家の活躍とともに新人の台頭にも著しいものがある。戦後の沖縄美術界も着実な歩みと共に多くの美術家を生み、育て、また愛好者の層も巾広いものになった。

そこで当博物館では明治以降の沖縄画壇または中央画壇で活躍した物故美術家（絵画、彫刻）の作品を一堂にあつめて展示することを企画した。すなわち、ここで沖縄の美術の流れをみることと同

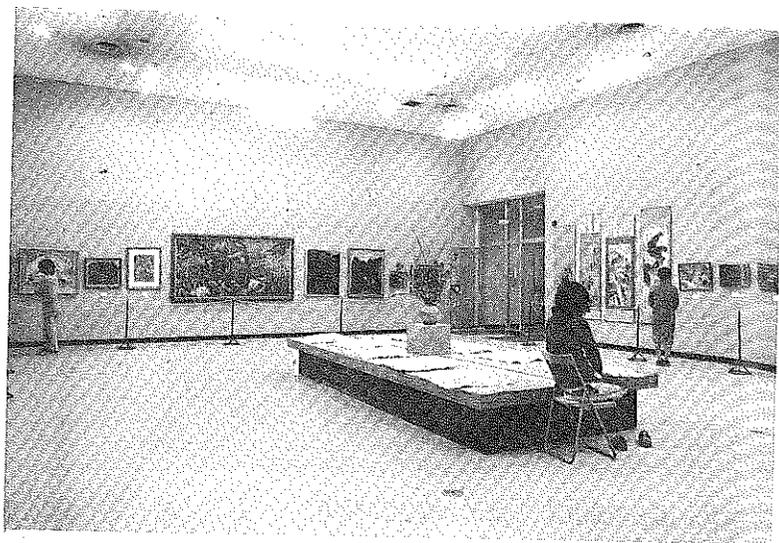
時に今後の方向性を見出すことに主目的をおいたのである。しかしながら、今日まで物故された美術家の作品を一堂に集めて開かれた展覧会はかつてなく、なかなか好評であったし、その点からしても有意義であったといえる

まず、展覧会開催までの経過をかいつまんで述べると、当博物館の担当者を中心に計画を立て、その準備にとりかかった。

外部から準備委員として

6人の画家に委嘱をして会合を持った。第1回の準備委員会では主旨説明のあと、展覧会の名称についていろいろ検討した。その結果、《沖縄近代物故美術家展》と決定した。次に出品する美術家名と作品名のリストアップについても討議し、出品依頼については実際に調査して作品を決定することになった。ところが、最初のほどはどこに、どういった作品が残っているのか見当さえつかないのもあった。なかには経歴さえはっきりしない画家や所在不明の作品などもあった。しかし、準備委員会を何回か行なっているうちにしだいに具体化してようやく展覧会までこぎつけた。

会期中はマスコミなどの協力もあって、おおくの人々にみていただき大成功であった。



展 示 風 景

出 品 目 録

番号	題 名	大 き き	氏 名
1	芭蕉の図	139.0×51.6	長嶺宗恭(華国)
2	関帝王	125.0×49.6	比嘉盛清(華山)
3	二十四孝の図	126.4×42.1	"
4	旧首里城の図	107.6×53.0	仲宗根 嶂 山
5	港 風 景	P20号	金城 正 栄
6	熊本農村風景	F 4号	"
7	壺 屋 裏	F40号	島 田 寛 平
8	窓 外	"	"
9	首里の追憶	40号	名渡山 愛 順
10	サンフランシスコ風景	12号	"
11	青藍緋の女	60号	"
12	う た た ね	80号	"

13	貝の碑	F50号	森田永吉
14	泳	F50号	"
15	(題名不詳)	F30号	"
16	草津白根山	F-20号	永丘智行
17	波の上	F10号	"
18	日光風景	F10号	"
19	瑞雲起飛龍	325×470	屋部 惠
20	紫気来鴻宝	370×523	"
21	塔	M30号	安谷屋 正義
22	1時5分前	F50号	"
23	港	M40号	"
24	厨子嚮	M80号	"
25	夕焼	F50号	南風原 朝光
26	静物	F50号	"
27	"	F50号	"
28	蛾	F60号	"
29	(題名不詳)	122.2×24.43	嘉数能 愛
30	鳩と少女	F20号	榎本 正治
31	花と少女	F10号	"
32	三色すみれ	F8号	"
33	樹間	F60号	宮平 清一
34	学習院大学内	F50号	"
35	学習院大学	F60号	"
36	花	P15号	"
37	首里城の図	379×528	山里 将聖
38	菜の花	520×36.0	我部 政達

◎ 特別展 考古展

期間 1974年(昭49)2月23日~10月23日

会場 第3展示室

二階増築を記念し当館の考古資料を中心に、教育庁文化課・沖縄国際大学高宮広衛教授及びOK給油、社長大山盛保氏等の資料提供を得て考古展を行なった。

できるだけ、資料を時代的・系統的に展示し、各時代の生活や文化を理解せしめ、郷土のあゆみを紹介するようにつとめた。しかし、実際は展示予算が乏しく、そのうえ、施設の狭隘や資料の貧弱さ、さらに研究の不十分さが災いしてねらいには程遠い展示内容になってしまった。

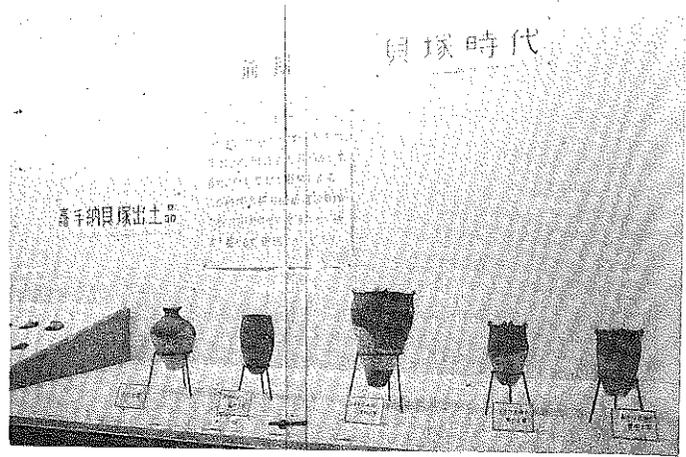
展示の構成は、発掘出土品を中心に編年表・写真資料・図表その他参考資料などを展示して各

時代の特色と生活を解説、パネルによって行った。将来は生活復元図も考説して、展示していきたい。

この展示室で取り扱う時代は、洪積世の末頃、未だ沖縄が台湾や大陸と陸橋でつながっていた頃、この島々に、はじめて人類が登場した先土器時代から貝塚時代を経て10～12世紀頃鉄器が伝来し、従来の狩猟漁撈の経済生活から農耕社会へと、移行して原始共同体は崩壊する。

原始社会から古代社会に移行する過渡的な時期を考古学的には「グシクの時代」または「晩期」ともいわれるが、この時期までの資料を扱う。

展示テーマを、第1「先土器時代」、第2「貝塚の時代」、第3「グシクの時代」とし、実物資料を中心に補助資料をも展示して原始・古代社会の様相を理解せしめるようにつとめた。



展示風景

◎ 特別展 新収蔵品展

期間 1974年(昭49)6月4日～7月21日

会場 第2展示室

昭和48年1月から12月までに入った資料を展示した。この時期に入った購入資料は38点、寄贈品113点である。そのうち約80点を展示した。

購入品では染織資料が大半を占めた。そのうちツギハギのような労働着は民俗資料に入れた。購入品での大きいものは民俗資料の「本ハギ舟」であろう。入手困難なのを某氏のはからいで大宜味村から購入した。

寄贈品の中では、糸満市玉福酒造所からの「酒造用具一式」32点、山城勝氏からの「厨子甕」5点などが優秀資料である。また宮古出身の与那覇清友氏の新作民具(復原)も庶民のすぐれた知恵を見せてくれた。

新収蔵品の内訳は購入の部で、陶磁器1点、染織28点、民俗9点である。寄贈の部では、染織12点、陶磁器7点、民俗91点、楽器2点、貨幣1点である。

出品内容

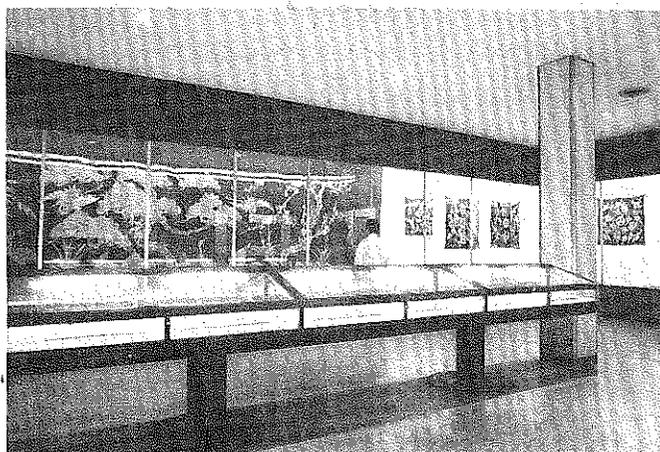
- 着物20点(紺地経縞着物、紺地木綿縞着物、花織木綿着物、格子柄芭蕉布着物、粗芭蕉着物、フクター、紺地貫雲緋木綿着物、黒地銭玉緋木綿着物など。)
- 酒造用具26点(仕込甕、酒甕、酒樽、桶、杵、甑、麴箱、箆、麴蒲団、ニクブクじょうご、柄杓、鍋蓋など)

- 屋形厨子甕 14点 ○壺形厨子甕 15点
- 南蛮壺（南支系）1点
- 茅容器4点（マグ、ブーイリマグ、ナビンフタなど）
- 編みかご、あみ袋類（ピラフ、アンディラ）
- 胡弓2点 ○豆腐箱
- 宮古式馬車鞍 ○棕櫚みの
- アダン製下駄

◎ 特別展

筒引びんがたと型紙展

期間 1974年（昭49）
 11月26日～12月26日
会場 第3室



展 示 風 景

びんがたには、型紙を用いる「型染め」と直接糊を置いて模様をつくる「筒引」の二つの手法がある。風呂敷や舞台幕は後者の手法でつくられる。模様は、松竹梅、鶴亀、牡丹、菖蒲などが多い。布地いっ

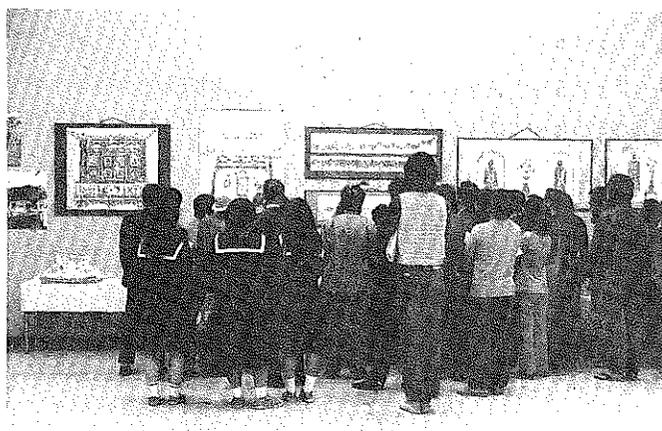
ぱいに描くのがふつうで、中心に家紋の入ったものもある。太い大柄な模様は、型染めびんがたとちがった独得の味わいをもっている。

今回は特に第3室の壁面に舞台幕を含め20点ほど展示した。

◎ 特別展

沖縄の石彫展

期間 1975年（昭49）
 1月10日～2月2日
会場 第2室



展 示 風 景

沖縄では古くは王城をはじめとし、一般庶民の屋敷囲である石垣に到るまで実に豊富に石材を使用してきた。と同時に石材彫刻も盛んに作られ、沖縄の文化遺産のひとつ

とつととしても高く評価されている。例えば、首里城正殿前の龍柱、歙会門や瑞泉門の石獅子、玉陵

の石獅子、世持橋や龍淵橋などの勾欄羽目、末吉宮の石獅子、浦添にある英祖玉陵と尚寧王陵、そして伊是名玉御殿の石獅子などの彫刻は実にすばらしい。一方、庶民の間では石厨子などにみる稚拙で素朴な彫刻、各部落にあった魔除け獅子にみるユーモラスな表情などいかにも沖縄の民族性を表現して面白い。

今回の石彫展においては当館所蔵の石彫をはじめ、拓本や写真などで構成し、沖縄の石彫の流れがわかるように展示し、好評であった。

展 示 会 一 覧 表

1974年1月～1975年3月

月 日	使 用 目 的	室 名	使 用 者 名
1. 4～ 2. 3	失われた国宝—円覚寺展	第2室	当 館
2.23～ 3.17	沖縄近代物故美術家展	第2室	当 館
2.23～10.23	考 古 展	第3室	当 館
3.20～ 3.24	沖縄盲学校生徒作品展(陶器)	第2室	沖縄盲学校
5.11～ 5.26	与那覇朝洋画個展	第2室	与那覇朝太
6. 4～ 7.21	新収藏品展	第2室	当 館
8. 6～ 8.25	稲福遺跡と原始琉球展	第2室	琉球考古学研究会
9. 1～ 9. 8	洋画二人展(当山進・儀間朝健)	第2室	当 山 進
9. 9～ 9.29	知念盛俊氏蔵「陸産貝と淡水産貝」展	第2室	当 館
10. 1～10. 6	有名作家版画展	第2室	久 高 将 晁
10.12～10.20	沖縄新美会展	第2室	沖縄新美会
11. 1～11. 7	県芸術祭 第2回美術展	第2室(2階)	県教育委員会
11. 1～11. 7	県芸術祭 沖縄県指定文化財工芸展	第3室	“
11. 9～11.17	沖縄旺玄会	第2室	沖縄旺玄会
11.26～12.26	筒引びんがたと型紙展	第3室	当 館
12. 3～12.15	洋画4人展 [名渡山愛抃・高江洲盛一 久場とよ・松島朝堅]	第2室	名渡山愛抃
1.10～ 2. 2	沖縄の石材彫刻展	第2室	当 館
2. 8～ 2.16	首里高校染織科卒業展	第2室	首里高校
3. 4～ 3. 9	琉大美術工芸科卒業展	第2室	琉大美工科

2. 普及活動

博物館文化講座

場所：当館講堂

時間：2:30~4:30

5月から開講した博物館文化講座のねらいは3つある。ひとつは展示とならぶ博物館の教育普及活動のひとつとしてこれを始めたということである。展示内容を補うためといってもよいし、これを深めるためのものといってもよい。もうひとつは、そのこととも関連することだが、沖縄には一般市民が郷土の自然や歴史、文化などについて、気軽に学習できる機会と場がきわめて少ないことから、その機会と場を博物館としてつくりたい、ということである。3番目のねらいは、この講座を通じて念願である「博物館友の会」結成のきっかけをつくることである。

これらのねらいは部分的には一応の成果をおさめ、部分的にはまだ芽を出さないでいる。「貝塚の話」、「焼物の話」、「織物の話」、「漆器の話」、「化石の話」、「民具の話」などは内容的に常設展とつながっているし、「陸産貝の話」や「石材彫刻の話」は館主催の特別展と併行して行われ、列品解説も行っている。「琉歌の話」、「琉球舞踊の話」は現在のところ展示と強い結びつきをもっているわけではないが、将来は文学、芸能面の展示にも力を入れなければならないということや、市民の関心が強いということから企画したものである。

一般市民を対象としていることからして、これまでは内容を概説的なものに限ってきたが、専門的、個別的なテーマを決めた研究会形式のものと考えている。開講してすでに一年たち、参加者も70人から130人ぐらいの範囲でほぼ一定し、定期的に参加するグループや個人も増えてきている。回数を増やしてほしいという要望は多いが、準備の都合でそれにも応えられず、「友の会」結成の目途もまだつけることのできない現状である。

以下でこれまでに開いた講座の概況を紹介したい。

◎ 第1回 貝塚の話

1974年(昭49)5月25日(土) 講師：新田重清学芸員

(1) 貝塚とは何か、(2) 貝塚から教えられること、(3) 貝塚のさがし方、(4) 遺跡を見つけたら、(5) 沖縄の貝塚、(6) 沖縄の先史文化、(7) 先島の先史文化、(8) 自然や文化財の保存について述べる。

遺跡発見の方法や発見したときの諸届けなど、考古学の入門的なことから、特に沖縄の本島、先島の先史時代について考察を加える。貝塚時代の人間の生活がどうであったかについてふれ、県内の貝塚の編年などをなす。

◎ 第2回 やきものの話

6月29日(土) 講師：宮城 篤正学芸員

(1) やきものとは、(2) やきものの分類 (3) 日本のやきものの流れ、(4) 琉球やきものの特記すべき事項。(5) 沖縄の古窯、について述べる。

やきものには、土器、陶器、炆器、磁器がある。また縄文・弥生の土器から須恵器、古瀬戸、古伊万里など日本のやきものには大きな流れがある。一方、沖縄においては、1450年には尚金福王のとき、中国式の陶窯を伝来せしめ、のち朝鮮式陶法、中国式陶法が伝来した。1682年には各地にあった窯を現在の壺屋の地に統合する。その後も薩摩をへて朝鮮式陶法、中国からの陶法の影響を受け、独自の発達をとげるようになった。

◎ 第3回 織物の話

7月27日(土) 講師：琉球大学助教授 大城志津子氏

(1) 織物の歴史、(2) 織物の種類、(3) よい織物とはどのようなものか、(4) 沖縄織物の特色、(5) 現在使用されている沖縄の天然染料、(6) 沖縄の植物繊維、について述べる。

沖縄の織物の種類には、紋織と平織があり、紋織に、(1) 首里花織、(2) 両緞織、(3) 読谷山花織、(4) 与那国の花織、(5) 絹織がある。平織には、(1) 緋、(2) 縞もの、(3) 無地ものがある。芭蕉布、久米島紬、宮古上布、八重山上布もここに位置する。また沖縄の織物の特色としては、(a) 小さな島にもかかわらず多彩な織物がある。(b) 特殊な原材料が生産される。(c) 土地の天然染料を使用している。(d) 琉球緋の凶柄が世界にも比類のない特色をもっている。

◎ 第4回 サンゴ礁の話

8月31日(土) 講師：琉球大学教授 山里 清氏

(1) サンゴとさんご礁のサンゴ、(2) サンゴの生理・生態、(3) さんご礁と人間、について入門的なことから、人間とのかかわりまで振り下げてふれる。

サンゴは、イソギンチャクやクラゲの仲間、もっとも原始的な多細胞動物である。その生息地は、北緯30°線にかこまれる熱帯、亜熱帯に分布し、裾礁、堡礁、環礁、エプロン礁、卓礁、離礁などを形成した。その生成には、光、温度、波、淡水、土砂などが大きく作用する。したがって、海洋汚染やオニヒトデはサンゴの大敵である。サンゴは、天然の防波堤となるばかりでなく、土木建築工芸の材料として、あるいは水産資源、観光資源として再確認する必要があるし、保護されなければならない。

◎ 第5回 陸産貝の話

9月28日(土) 講師 知念高校教諭 知念 盛俊氏

(1) 童謡の中の陸貝、(2) かたつむりの呼び名、(3) 陸貝あれこれ、(4) 陸貝とは陸に棲む軟体動物、について述べる。

沖縄のかたつむりをうたった童謡に「ちんなんもうもう ^び米^{どんじ}碇き見せらば飛出りよう」「ちんなんもうもう ^{うふくだ}大^ふ管^だもうもう 新垣山かいとん登れ」などおもしろいのである。かたつむりの方言名

としては、沖縄本島では「チンナン」であるが、宮古で「パルンナ」、西表で「ヤマチザン」である。昆虫は世界で約75万種、貝は約12万種で、昆虫類に次ぐ大群である。貝のうちの2割は陸貝で占められる。日本で1,000種、沖縄では約180種記録されている。陸貝は移動がきわめて貧弱で、島と運命をともにしてきた。沖縄の60余の島々には隔離による特産種の発達が見られ、きわめて興味深い。

◎ 第6回 琉歌の話

10月26日(土) 講師 琉大助教授 池宮 正治氏

(1) 琉歌の種類、(2) 本土の文芸の影響、(3) 琉歌の源流、(4) 二人の女流歌人、について述べる。琉歌の種類としては、(a) 888886形式の長歌、(b) 75調、55調、77調の仲風、(c) 8886形式の琉歌、(d) 不定形の4つに分類。本土文芸の影響としては、古今和歌集の「ときはなる松の緑も春くれば、いまひとしほの色まさりけり」を本歌として作った歌が「こてい節」で知られる「ときはなる松のかはることないさめ、いつも春くれば色どまさる」である。似たような形式の歌がたくさんある。琉歌は三味線の伝来によって、いちじるしく発達したのである。

◎ 第7回 漆器の話

11月30日(土) 講師 漆芸家 前田 孝允氏

(1) 工芸と漆器、(2) 漆器の美、(3) 漆器の歴史、(4) 琉球漆器の優秀性について、(5) 漆器の基本的生産工程、について述べる。

「うるし」の言葉の源は、艶があって「うるおう」ようだというところからついた名称だといわれる。ぬりものは生きものであり、さらに愛情の年輪だということができる。製作工程としては、製材、木取り、あら挽きなどの木地づくりから、下地研ぎ、中塗、中塗り研ぎ、上塗というように複雑な作業である。

なお、8ミリ映写では、(1) 漆液搔取、(2) 漆くろめ、(3) 漆刷毛作り。スライドでは、「琉球漆器の種類や技法の特色」を準備。

◎ 第8回 琉球舞踊の話

12月21日(土) 講師 県文化課専門員 宜保 栄治郎氏

(1) 舞踊の発生、(2) 舞踊の種類、(3) 舞踊の構成、(4) 沖縄舞踊における諸問題について述べる。琉球舞踊は、神事舞踊を主体にし、形式としては本土の歌舞伎以前の小歌舞の形式(出羽、中踊、入目)をとり入れた。江戸上りのところの琉球芸能は高いレベルを持っているので、本土芸能にも影響を与えた。そのころの琉球芸能は、古典一辺倒の自覚ではなく、周辺諸国の芸能を貪欲なまでに吸収して創造していったエネルギーがあった。現在も民謡、民俗芸能、伝説、風俗などを研究し創造する意欲が必要である。現在は形式の追求のみに終始しているが、今後の問題として上手、下手の内容面の追求に視点をかえるべきであろう。

◎ 第9回 沖縄の石材彫刻

1975年(昭50) 1月25日(土) 講師 外間 正幸館長

沖縄の石材彫刻には、王府によって製作されたものと、一般庶民のくらしの中から生みだされたものがある。前者は首里城正殿前、石龍柱、歓会門石獅子などに見られるごとく、豪壮美術建造物の正面に、装飾の目玉として置かれた。それらの製作には、海外からも資材や技術を導入して建物の建造と同様に力を注いだ。また、一般庶民の彫刻は、部落の石獅子に見られるように、人々のくらしに直接かかわるものが造られた。城壁や石垣、石畳など石の加工に特色がある。橋の勾欄羽目の彫刻としては、魚介、海波、花鳥などがある。石材は島産の微粒砂岩系の石がよく使われたが、外来石と思われる輝緑岩や凝灰岩があり、島産の琉球石灰岩がある。

階級の上下を問わず、いつの時代にも人々は真心をこめて石を刻んだ。戦災でこれらの石材彫刻はいたましく破損したが、石は永遠に不滅である。沖縄の歴史と文化を知る上にもきわめて貴重な文化遺産である。

◎ 第10回 化石の話

2月22日(土) 講師 大城 逸朗学芸員

(1) 化石とは何か、(2) 化石にはどんな種類があるか、(3) 化石が学問となるまで、(4) 日本での研究のはじまり、(5) 化石はどのようにしてできるか、(6) 化石の処理 (7) 化石に名をつけるばあい、(8) 化石から何がわかるか、(9) 生きている化石、(10) 沖縄にみるいろいろな化石、について述べる。

化石は、地質時代に生残していた生物の遺体及び遺跡である。遺体としては、骨、歯牙、殻や実、花粉、孢子などがあり、遺跡としては、はい跡、足跡、糞などがある。それについてはいくつかの条件があつて、その生物の化石が発見されるということは、ある時代に数多く栄えていたことになるし、それが保存される環境にあつたといえる。化石から、(1)地下資源の開発、(2)地史を調べる鍵、(3)大昔の地理を知ることができる。(4)生物の進化を探ることができる。

◎ 第11回 民具の話

3月29日(土) 講師 上江洲 均 学芸員

(1) 民具とは何か、(2) 民具の分類、(3) 民具研究史、(4) 沖縄における民具研究、(5) 民具の調査・収集、(6) 沖縄の民具の特性、(7) 今後の民具研究、について述べる。

民具研究の歴史は、日本ではまだ半世紀と日が浅いが、今では各地に研究者が多く輩出し、係をとりながら研究をすすめており、「学問」として成立するまでにいたっている。考古資料とつないでの物の歴史をさぐると同時に、横の広がりも考察することによってそれを作り用いた人間そのものの研究にもつながると考えられる。沖縄の民具は、日本本土とのつながりは深いが東南アジアとのつながりも同時に考えられなければならない。



受 講 風 景

来 館 者 数

1 年度別来館者統計

年 度	人 数	備 考
1962年(昭37)	119,437	
1963年(昭38)	119,281	
1964年(昭39)	150,935	
1965年(昭40)	89,593	
1966年(昭41)	135,386	11月新館開館
1967年(昭42)	229,464	「日本古美術展」(文化財保護委員会, 琉球政府共催)
1968年(昭43)	97,062	
1969年(昭44)	100,110	
1970年(昭45)	100,238	
1971年(昭46)	268,524	「日本古美術展(サントリー美術館, 当館共催)
1972年(昭47)	308,583	「50年前の沖縄写真展」(サントリー美術館・当館共催), 「日本古美術展」(文化庁・県教育委員会共催)
1973年(昭48)	96,317	
1974年(昭49)	101,018	
計	1,915,948	

2 月別来館者統計

(1974年1月~3月)

項目 月	大 人	学 生	生 徒	計	開館日数	1日平均	備 考
1	3,990	465	431	4,886	22	222	
2	4,695	313	567	5,575	15	372	
3	9,002	1,961	3,066	14,029	26	540	
計	17,687	2,739	4,064	24,490	63	389	

(1974年4月~1975年3月)

項目 月	大 人	学 生	生 徒	計	開館日数	1日平均	備 考
4	6,095	556	720	7,371	24	307	
5	7,260	275	3,913	11,448	25	458	
6	4,969	141	3,661	8,771	25	351	
7	3,233	840	842	4,915	20	246	
8	6,168	1,798	1,771	9,737	27	361	
9	3,542	537	1,151	5,230	24	218	
10	6,583	289	4,437	11,309	26	435	
11	6,260	128	5,718	12,106	19	637	
12	3,083	245	2,990	6,318	22	287	
1	3,733	137	395	4,265	18	237	
2	6,091	300	1,188	7,579	23	330	
3	7,910	1,470	2,589	11,969	25	479	
計	64,927	6,716	29,375	101,018	278	363	

来 館 学 校 团 体 名

(1974年1月~1975年3月)

月	学 校 团 体 名		人数	月	学 校 团 体 名		人数
1月	那 覇 市	沖縄女子短大家政科	20	5月	宮 古	池間中学校	58
"	"	城西小学校美術クラブ	22	"	那 覇 市	識名小学校	45
"	今帰仁村	湧川中学校	43	"	"	"	390
3月	大里村	大里南小学校	115	"	"	"	44
"	宜野湾市	マーシイ米人小学校	27	"	"	"	46
"	那 覇 市	那覇中学校	120	"	"	"	43
"	"	城西小学校	220	"	"	"	45
"	東 京 都	武蔵野高等学校	270	"	"	"	47
"	"	"	263	"	"	"	45
"	"	"	213	"	"	"	45
"	"	"	212	"	"	"	47
"	那 覇 市	盲 学 校	20	"	鹿 児 島 県 徳 之 島	亀徳小学校	43
"	兵 庫 県	神戸山手女子短大	31	"	八 重 山	波 照 間 中 学 校	41
"	勝 連 村	南原小学校	34	"	宮 古	狩 俣 中 学 校	59
4月	那 覇 市	松島小学校	32	"	与那原町	与那原中学校	215
"	"	"	31	"	宜野湾市	Mercy Elem. School	25
"	"	"	29	"	"	"	22
"	"	"	32	"	"	"	24
"	"	"	33	"	国 頭 村	国頭中学校	100
"	"	"	32	"	宮 古	佐良浜中学校	186
"	"	那覇米人中学校	29	"	久 米 島	具志川中学校	98
"	八 重 山	黒島中学校	41	"	"	比屋定中学校	24
"	KADENA	MJK School	27	"	宮 古	砂川中学校	108
"	東 京 都	リニ-学園高校	20	"	八 重 山	石垣第二中学校	351
5月	浦 添 市	神森中学校	263	"	宮 古	福嶺中学校	85
"	那 覇 市	真嘉比小学校	150	"	南大東村	南大東中学校	43
"	那 覇 市	"	179	"	宮 古	久松中学校	71
"	熊 本 県	熊本城北高校	140	"	鹿 児 島 県 与 論 町	那間小学校	42
"	宜野湾市	Mercy Elem School	25	"	八 重 山	川平中学校	53
"	"	"	22	"	北大東村	北大東中学校	50
"	"	"	22	"	大宜味村	喜如嘉中学校	40
"	久 米 島	久米島中学校	56	6月	宮 古	平良中学校	430
"	宮 古	城辺中学校	112	"	八 重 山	大浜中学校	120

6月	宮古	鏡原中学校	84	9月	石川市	宮森小学校	106
"	伊是名村	伊是名中学校	105	"	"	"	102
"	宮古	下地中学校	100	"	玉城村	玉城中学校	215
"	"	西辺中学校	75	"	八重山	白保中学校	51
"	"	伊良部中学校	152	"	熊本県	ヤブキ高校	35
"	那覇市	真和志中学校	20	10月	読谷村	読谷小学校	100
"	伊江村	伊江中学校	203	"	"	"	45
"	宮古	西城中学校	111	"	"	"	44
"	粟国村	粟国中学校	52	"	"	"	44
"	羽地村	羽地中学校	170	"	名護市	屋部小学校	60
"	那覇市	小禄小学校	58	"	"	知念中学校	149
"	鹿児島県 和泊町	国頭小学校	46	"	山梨県	桜ヶ丘高等学校	169
"	鹿児島県 与論町	与論小学校	45	"	福岡県	京都高等看護学校	44
"	恩納村	恩納中学校	70	"	与那城村	宮城小学校	41
"	伊平屋村	伊平屋中学校	57	"	名護市	瀬喜田小学校	54
"	渡名喜村	渡名喜中学校	23	"	恩納村	仲泊中学校	53
"	今帰仁村	古宇利中学校	44	"	広島市	広島工業大学附属広島高校	252
"	八重山	伊原間中学校	72	"	与那城村	宮城中学校	120
"	"	石垣中学校	282	"	本部町	伊豆味小学校	35
"	福岡県	九州産業高校	350	"	北谷村	北谷中学校	200
"	八重山	大原中学校	32	"	読谷村	古堅中学校	198
"	"	名蔵中学校	42	"	名護市	久志中学校	74
"	宮古	上野中学校	200	"	宜野湾市	大山小学校	121
7月	静岡県	日本大学 文科	57	"	恩納村	山田中学校	53
"	"	" 家政科	68	"	名護市	三原小学校	29
"	渡嘉敷村	渡嘉敷小学校	23	"	宮崎県	小林商業高校	65
"	兵庫県	兵庫県立農業大学	36	"	宜野座村	松田小学校	22
8月	大阪市	大阪教育大学 天王寺分校	20	"	本部町	伊野波中学校	29
"	静岡県	日本大学	116	"	金武村	金武小学校	150
"	与那城村	宮城小学校	29	"	宜野座村	松田小学校	22
"	山口県	宇部短期大学	20	"	沖縄市	諸見小学校	240
"	埼玉県	三芳野学園	47	"	金武村	嘉芸小学校	87
"	岡山県	作陽短期大学	27	"	名護市	久辺中学校	74
9月	大里村	大里北小学校	81	"	"	真喜屋小学校	46
"	那覇市	城西小学校	44	"	東村	有銘中学校	21
"	佐敷村	佐敷小学校	150	"	沖縄市	コザ中学校	450
"	糸満市	兼城中学校	126	"	与那城村	与勝第二中学校	130

11月	玉城村	百名小学校	58	11月	嘉手納	Kadena Elementary School	29
"	名護市	安和小学校	42	"	"	"	33
"	"	久辺小学校	65	"	"	"	28
"	北谷村	北玉小学校	120	"	"	Kadena Elem. School	54
"	具志川市	川崎小学校	79	"	"	"	42
"	国頭村	辺土名小学校	62	"	"	"	26
"	勝連村	勝連小学校	88	"	名護市	東江小学校	130
"	石川市	伊波小学校	107	"	"	稲田小学校	35
"	那覇市	首里高校染織科	40	"	玉城村	玉城小学校	83
"	鹿児島県 知多町	大城小学校	30	"	恩納村	屋富祖中学校	31
"	宜野湾市	普天間第二小学校	190	"	大宜味村	喜如嘉中学校	30
"	大分県	大分工業高校	92	"	玉城村	船越小学校	40
"	"	三隅商業高校	260	"	名護市	屋我地小学校	49
"	那覇市	首里高校	43	"	嘉手納村	嘉手納小学校	180
"	"	城西小学校	40	"	名護市	名護中学校	446
"	本部町	本部中学校	179	"	沖繩市	島袋小学校	89
"	本部町	浜元中学校	34	"	中城村	津覇小学校	100
"	石川市	城前小学校	125	"	菊地市	菊地女子高等学校	170
"	宜野湾市	普天間小学校	240	"	上本部村	上本部中学校	20
"	名護市	屋部中学校	98	"	那覇市	大平養ゴ学校	15
"	伊江村	伊江中学校	143	"	恩納村	恩納小学校	59
"	鹿児島県 知多町	大城中学校	30	"	名護市	久志小学校	24
"	勝連村	南原小学校	21	"	豊見城村	座安小学校	165
"	那覇市	沖繩聾学校	46	"	名護市	羽地小学校	69
"	宜野座村	宜野座小学校	55	"	読谷村	読谷中学校	300
"	沖繩市	美東小学校	79	"	大宜味村	津波中学校	20
"	大分県	大分県立大野高等学校	151	"	東村	東中学校	44
"	沖繩市	コザ小学校	164	"	国頭村	佐手中学校	45
"	勝連村	津堅小学校	37	"	今帰仁村	兼次小学校	63
"	大宜味村	塩屋小学校	35	12月	名護市	屋我地中学校	50
"	与那城村	与勝中学校	380	"	与那城村	与那城小学校	231
"	今帰仁村	湧川小学校	31	"	今帰仁村	天底小学校	60
"	与那城村	伊計小学校	32	"	読谷村	古堅小学校	168
"	崎本部町	崎本部中学校	35	"	"	喜名小学校	80
"	沖繩市	北美小学校	67	"	大里村	大里中学校	169
"	勝連村	津堅小学校	42	"	読谷村	渡ヶ次小学校	98
"	嘉手納	Kadena Elementary School	26	"	"	喜名小学校	80

12月	宮崎県	小林西高校	177	2月	沖縄市	嘉手納米人中学校	90
"	糸満市	糸満中学校	350	"	嘉手納	Kadena Elementary	25
"	"	真壁小学校	107	"	"	"	27
"	国頭村	奥中学校	40	"	"	"	26
"	糸満市	糸満中学校	328	"	"	"	27
"	本部町	瀬底中学校	39	3月	那覇	沖縄女子短大附属高校	114
"	糸満市	鏡ヶ丘養護学校 兼城分校	10	"	福岡県	福祉法人 小郡学園	25
"	嘉手納村	屋良小学校	142	"	那覇	ベテル愛児園	33
"	今帰仁村	兼次中学校	79	"	浦添	浦添幼稚園	220
"	石川市	石川中学校	339	"	国頭村	佐手中学校	25
"	名古屋市	常女学院	372	"	嘉手納	Kadena Elementary School	25
"	嘉手納	Kadena Elementary School	58	"	"	"	21
"	大阪府	玉川大学	25	"	"	"	27
"	那覇市	首里高校	27	"	"	"	33
"	"	那覇幼稚園 造形教育研究会	20	"	"	MDK School grade1	27
50年 1月	名古屋市	常盤女学院	37	"	東京	武蔵野高校	153
"	嘉手納	Kadena Elem School	60	"	"	"	103
"	"	"	79	"	"	"	200
"	"	"	27	"	"	"	225
"	"	"	25	"	"	"	114
"	"	"	25	"	"	"	105
"	"	"	25	"	那覇市	久茂地小学校(3年)	122
2月	本部町	瀬底小学校(6年生)	35	"	国頭村	北国中学校(2年)	25
"	嘉手納	Kadena Elem School	32	"	那覇市	大道学習室	35
"	沖繩市	美里中学校(1年生)	339	"	京都	花園高校(1班)	135
"	本部町	崎本部小学校(6年生)	25	"	"	花園高校(2班)	145
				"	東京	文化服装学院	20

浦添王子朝熹書扁額「徳馨」の受け入れについて

（経過）

大阪天満宮神前に130年かかっていた「徳馨」の扁額が、11月27日に同宮から正式に寄贈され、同日午後当館ロビーにおいて贈呈式が行われた。

以前からその所在については、沖縄では新聞の報ずるところとなり知られていたが、たまたま昨年新聞で再び取上げられたのをきっかけに譲渡の要請書を送り、宮側のご厚意により内諾を得、いよいよ贈呈式となったのである。

その間、橋渡しの役をされたのが大阪市立博物館長の平山敏治郎氏である。さらに贈呈式に先だって、梱包と空港までの運搬は屋良運送の屋良朝光氏がこころよく引受けて下さった。また大阪、那覇間の空輸は全日空が、取付作業には新世住宅株式会社が、それぞれ無料奉仕された。この扁額が当館に入ったのは、多くの方々の善意によるものである。

（贈呈式）

11月27日午後2時から、はるばる出席された寺井種茂宮司、平山敏治郎大阪市立博物館長、黒住忠行参議院議員をはじめ、県側から池村教育長、仲宗根次長、照屋文化課長、池原社会教育課長補佐らが出席した。

「徳馨」の扁額は、浦添王子朝熹（尚元魯）の揮毫したもので、たて94cm、よこ194cmの木彫である。右に「大日本国浪華天満宮廟奉呈」左に「天保十四年癸卯玉正」「琉球国摂政尚元魯謹書」とある。第12代将軍徳川家慶の即位祝賀の賀慶正使が、この浦添朝熹であった。天保13年12月に江戸上りをし、無事任務をはたして京大阪まで帰ったのが、翌年の1月であった。その時頼まれて揮毫したのがこの扁額の書である。浦添朝熹は尚穆王の孫で、最高行政官である摂政職にあること18年、また和文学者でもあった。桂園派の樹立者香川景樹に私淑した人である。

作品につぎのようなものがある。

誰にかも契りおきけん逢坂の

関のこなたに松虫のなく



博物館資

1. 所蔵資料現在高

1975/3/31現在

分類	受人別	購入	寄贈	収集	計	寄託品
絵画	A	49	48	1	98	
書跡	B	68	63	49	180	32
彫刻	C	11	22	163	196	
建築	D	4	6		10	
陶磁	E	392	974	256	1,622	1
染織	F	751	181	12	944	2
漆器	G	156	119	28	303	
金工	H	10	47	19	76	
歴史	I		7		7	
貨幣	J	1	437	2	440	
楽器	K	4	31		35	1
装身具	L	62	32	14	108	21
民俗	M	313	761	46	1,120	
考古	N	33	51	2	86	3,000
その他	O	2	12		14	
自然	X	33	35		68	
計		1,889	2,826	592	5,307	3,057

民俗

民俗

民俗

P. 戦争資料

2. 新収蔵資料

1 購入の部

(1974年1月~3月)

分類	名称	数量	分類	名称	数量
染織	芭蕉布着物	1	漆器	朱塗酒入れ	1
民俗	シャコ貝の貝錘つき漁網	1	"	朱塗山水絵堆錦丸盆	1
"	ヤマ (糸車)	2	陶磁器	喜名焼ガメ	1
"	アダン葉ぞうり他7点	8	絵画	琉球八景	1
"	ヤマシシヤイ 他1点	2	"	李白観瀑図	1
漆器	螺鈿煙草入れ	1	陶磁器	荒焼味噌ガメ	1
"	朱塗螺鈿牡丹香合	1			

(1974年4月~1975年3月)

分類	名称	数量	分類	名称	数量
民俗	ハズ 他3点	4	漆器	黒塗螺鈿机	1
書跡	源遠流長 (拓本)	1	絵画	琉球美女図	1

絵画	花鳥図	1	書	渡嘉敷兼副書軸	1
民俗	台湾パイアン族連杯	1	民俗	石臼その他	94
書跡	周煒書軸	2	自然	サンゴその他	33
民俗	屋根獅子	1	民俗	進貢船模型	1

2 寄贈の部

(1974年1月~3月)

分類	名称	数量	寄贈者名(敬称略)
民俗	タンブーダマ	1	(大宜味村) 平良慶朝
"	オーラー(もっこ)	2	" "
"	ティーンヌ(手斧)	1	" "
"	二又鋏	1	" "
"	三又鋏	2	" "
"	平鋏	1	" "
"	オシノコ(押鋸)	2	" "
"	カンナ	1	糸満市 大城清
染織	浅地アヤヌナーカー着物	1	那覇市 比嘉政夫
民俗	上焼御殿型厨子ガメ	1	中城村 安里永浦
"	石厨子	1	" "
"	フドゥチ(むしろ機用)	2	読谷村 大城恵子
"	イリチウクサー(うることり)	1	糸満市 長嶺ヨシ
漆器	竹雀桐御紋付五段重	1	川崎市 高橋君江
"	黒塗葵紋敬金蒔絵五段重	1	" "
民俗	石厨子 他5点	6	中城村 比嘉喜保
染織	宮古上布裂地帳	1	沖繩 縄財団
民俗	スルシカー石	1	糸満市 上原亀市
"	スルンヌ	1	那覇市 末吉安久

(1974年4月~1975年3月)

分類	名称	数量	寄贈者
染織	経縞インド藍染着物	1	登野サダ
民俗	膳	1	今帰仁村 田港ツル
"	クダ	1	" "
"	コージャー経縞着物	1	読谷村 大城恵子
彫刻	龍頭観音像	1	向井文忠
陶磁器	三耳壺	1	大里村 新垣良雄
建築	羽目板	1	与那原町 比嘉定寛
染織	黒朝衣	1	
"	カカン(黒)	1	
"	男物羽織	1	
"	黒朝衣	1	
"	白地緋麻地着物	1	
民俗	壺型厨子ガメ	2	那覇市 糸嶺篤温
漆器	朱塗堆綿置台	1	京都市 伊藤勝一
陶磁器	荒焼水ガメ	1	那覇市 石川栄一

分類	名称	数量	寄贈品
民俗	荒焼三耳壺	2	知念村 親川 巖
"	荒焼四耳壺	1	" "
"	荒焼三耳壺その他	40	佐敷村伊原部落
"	ウーシ	1	"
陶磁器	土器壺	1	那覇市 小波津 忍
"	黄釉塩壺	1	" 与那覇 清友
民俗	おもがい	1	" "
染織	浅地格子着物	1	" 徳村 千代
"	木綿紺地経縞着物	1	" "
"	芭蕉布型付着物	1	" "
"	経縞麻・芭蕉交織着物	1	" "
"	芭蕉布ハカマ	1	" "
"	芭蕉布格子着物	1	" "
陶磁器	磁器・茶碗	1	東村 金城 マツ
"	アラマカイ	1	平良市 岡本 恵昭
民俗	位牌	2	" "
"	獅子頭	1	中城村 新垣 盛光
考古	刻画石	2	北谷村 高宮城 実盛
"	三段式石ハウス	1	" 牧野 佐市
菓器	ヘビ皮	1	那覇市 又吉 真栄
"	チーガ(胴)	1	" "
"	サンバ	1	" "
"	両板	1	" "
"	胡弓(四絃)	1	" "
"	真壁型三味線	1	" "
"	江戸与那型三味線	2	" "
"	久兼の骨型三味線	1	" "
"	久場春殿型三味線	1	" "
"	平仲知念型三味線	1	" "
"	拝領南風原三味線	1	" "
民俗	壺型厨子ガメ	12	豊中市 仲本 照永
"	墓牌名(瓦)	1	東京都 国吉 良一
"	壺型厨子ガメ	19	" "
"	"	1	石川市 高安 高清
"	ユイ	3	浦添市 宮城
"	パーキ	2	" "
"	ユナパーキ	1	" "
"	獅子頭	1	首里汀良町自治会
"	石臼と石杵	1	那覇市 島袋 賀真
染織	格子柄久米島紬羽織	1	仲里村 仲原 善秀
書跡	尚元魯書扁額「徳馨」	1	大阪市 大阪 天満宮

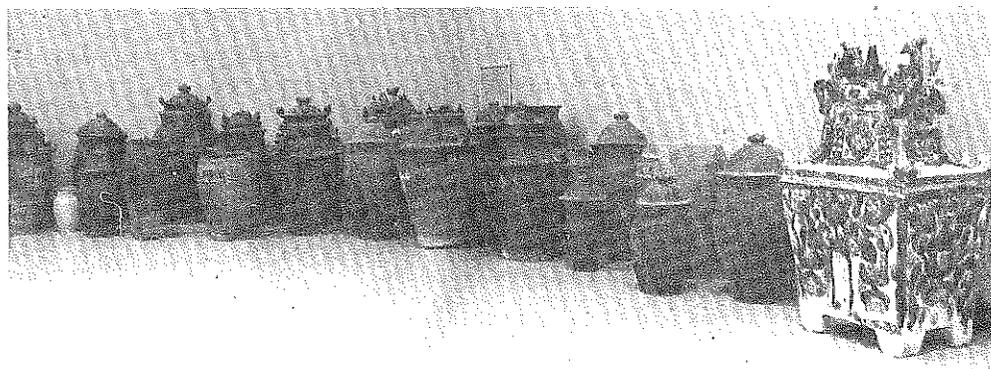
3. 主なる新収蔵品写真



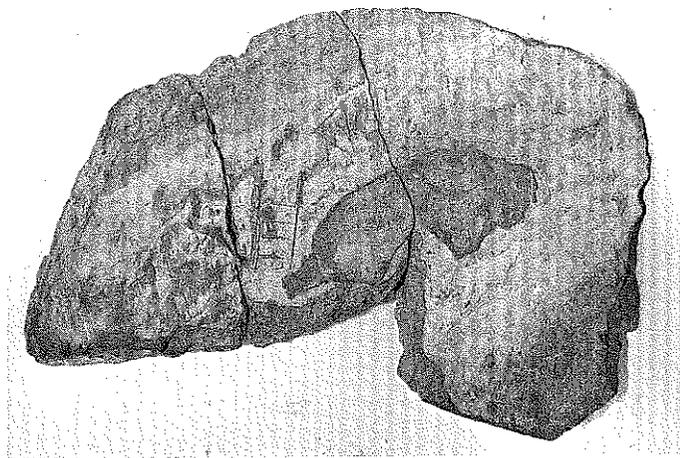
三耳壺



獅子頭



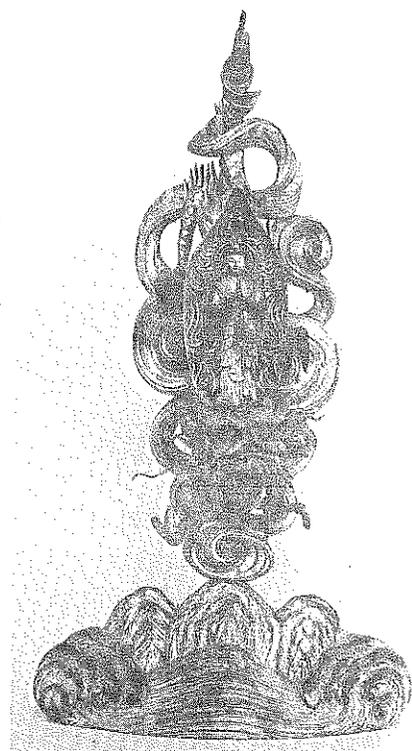
ずしがめ



刻画石



刻 画 石



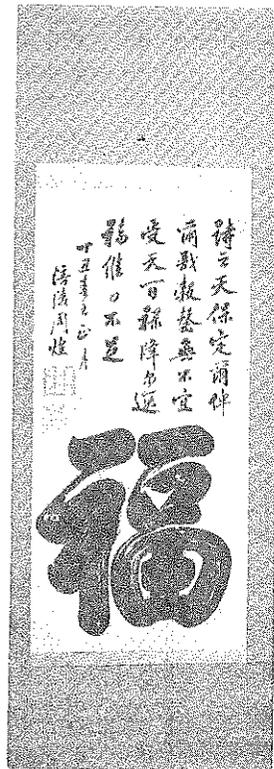
龍 頭 觀 音 像



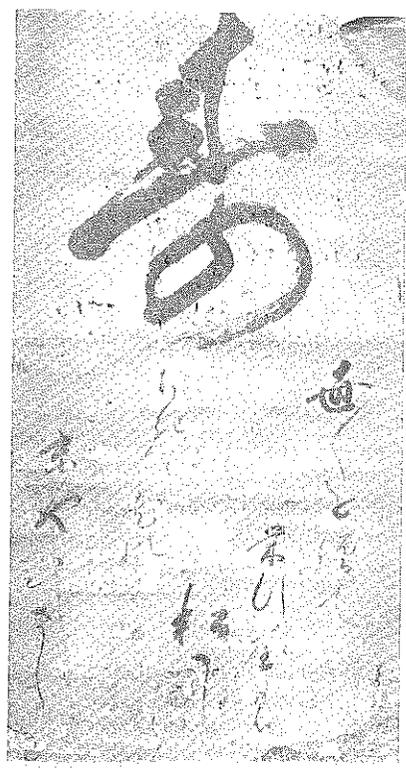
朱 塗 堆 錦 置 台



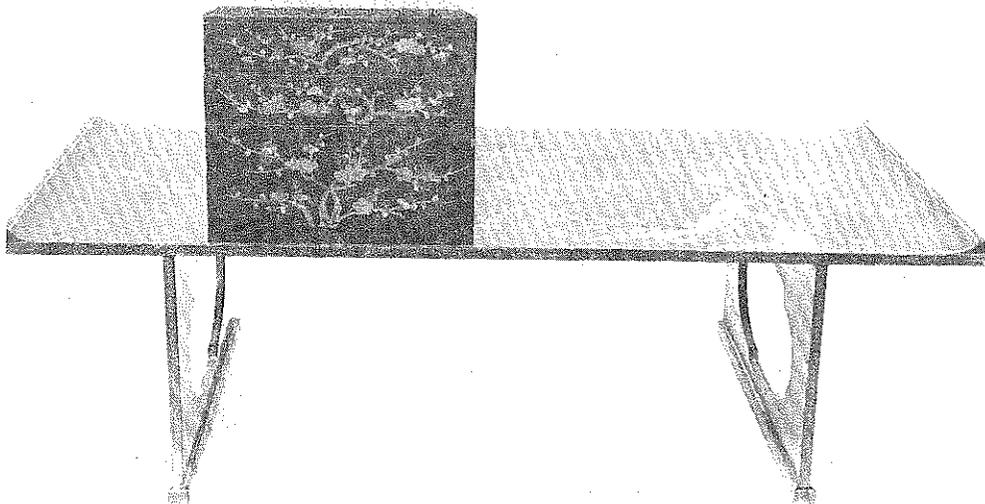
伝自了筆 李白観瀑図



周 焯 書



渡嘉敷兼副作「和歌」



黒 塗 螺 鈿 机

4. 新 収 蔵 図 書

(1) 購入の部

1974年1月～3月

書 名	数 量	書 名	数 量
考古学講座第1巻～第11巻	11	金城朝永全集 上・下巻	2
比嘉春潮全集 第5巻	1		

1974年4月～1975年3月

書 名	数 量	書 名	数 量
球 陽	1	日本化石集 No.1～No.18	18
原色日本貝類図鑑	1	伊波普猷全集 第1巻	1
続 "	1	" 第2巻	1
" 世界貝類図鑑	1	仏像図典	1
続 "	1	仏像のみかた	1
原色岩石図鑑	1	女子職員－仕事と人間との関係	1
原色鉱石図鑑	1	職業と接遇	1
続 "	1	おつきあいの事典	1
原色化石図鑑	1		
原色日本海岸動物図鑑	1		

(2) 寄贈の部

書 名	部数	寄 贈 者 名	書 名	部数	寄 贈 者 名
浦和市立郷土博物館 研究調査報告書第一集	1	浦和市立郷土 博物館	京都国立近代美術館 昭和47年度年報	1	京都国立 近代美術館
埼玉県立博物館要覧	1	埼玉県立博物館	明治村 No.44 No.45	1 2	財団法人 博物館明治村
長崎の物故画家100集	1	長崎県立 美術博物館	明治村通信	9	"
昔の旅 特別展	1	埼玉県博物館	グラフ松山 No.24	1	松山市教育委員会
伊丹市立博物館 解説目録第3号～第5号	1	伊丹市立博物館	錦川志	1	岩国徴古館
伊丹市立博物館だより 第1巻 第1, 2号	3	"	福島県文化センター月報	11	福島県文化センター
韓国の古美術	1		あるく、みる、きく	12	日本観光文化 研究所
浮世絵日本の旅展	1	リッカー美術館	国際動物園長連盟第28回 総会研究報告集	1	日本動物園 水族館協会
1973年度那覇市勢要覧	1	那覇市企画部広報課	沖縄の郷土月刊誌 (青い海)	11	青い海出版社
民俗資料調査報告書	1	鹿児島県明治百年 記念館	教育沖縄	5	沖縄県教育委員会

民俗文化 (125~136)	12	滋賀民俗学会	サントリー美術館 回想の清方 その二	1	サントリー美術館
博物館ひろば No.15	2	神奈川県 博物館協会	山口県の自然	1	山口県博物館
博物館ニュース	4	日本博物館協会	山口博物館研究報告	1	"
山形県立博物館ニュース 第18号	1	山形県立博物館	道立美術館だより	1	北海道立美術館
埼玉県立博物館ニュース	3	埼玉県立博物館	史料館報 第20号	1	国立史料館
郷土資料館だより(17~20)	4	石川県立 郷土資料館	美術館だより	10	和歌山県立 近代美術館
博物館報 No.19	1	佐賀県立博物館	アジア文化	2	財団法人 東洋哲学研究所
視 る	10	京都国立近代 美術館	北海道美術館 美術鑑賞手引き	1	北海道美術館
市立旭川郷土博物館月報	4	北海道 旭川郷土博物館	みんなの県政	2	沖縄県 知事公室広報課
" だより	3	"	那 朔	1	那朔市商工観光課
市立函館博物館館報	1	市立函館博物館	観光客アンケート集計年報	1	"
鹿児島明治百年記念館 建設調査室だより	1	鹿児島県 明治百年記念館 建設調査室	熊本博物館友の会	1	熊本博物館 友の会会長
琉球の裏面史	1	石川 文 一	釧路市立郷土博物館々報	6	釧路市立博物館
日本美術年表	1	芸心社	沖縄思潮	1	沖縄思潮 編集委員会
北関東美術展	1	栃木県立美術館	全国博物館大会報告書	1	社団法人 日本博物館協会
MUSEUM	12	東京国立博物館	用 と 美	1	北九州市 用と美の会
柏 姓 家 譜	1	中 山 良 彦	青森県植物研究年譜	1	青森県立郷土館長
伊豆大島ハワイ植物園 栽培植物目録	1	伊豆大島ハワイ 植物園	見学のしおり	1	"
人間革命の記録	1	写真評論社	沖縄県刊行物目録	1	知事公室広報課
復帰記念沖縄特別 国民体育大会報告書	1	沖縄県特別 国体事務局	「明治初期における炭鉱の 開発と内炭鉱における生活 と歴史」	1	北海道開拓 会館会長
欽 姓 家 伝	2	米・須 清 徳	熊本史学 42号 43号	2	熊本史学
19世紀 フランス絵画展	1	栃木県立美術館	但馬の歴史と文化財	1	大阪市立博物館
日本の市街古図	1	鹿島研究所出版会	研究紀要 第6冊	1	"
日本の美術 4	1	真 保 亨	自然科学と博物館	1	国立科学博物館
考古資料室要覧	1	国学院大学 考古学資料室	京都国立博物館年報	1	京都国立博物館
観覧者実態調査	1	東京国立博物館	釧路市立郷土博物館館報	3	釧路市立博物館
日本の美術	11	至文堂	サントリー美術館 津軽こぎん	1	サントリー美術館
国立科学博物館 研究報告	1	国立科学博物館	琉球の文化	1	琉球文化社編集部
染織と生活 第4号	1	富 山 弘 基	糸満の民俗	1	県教育委員会 文化課

図版資料 金、沈金、存星	1	東京国立博物館	民俗博物館設立のすすめ	1	日本観光文化研究所
山形県立 博物館ニュース	5	山形県立博物館	郷土と博物館 19巻第2号	1	鳥取県立博物館
神奈川県立 博物館だより	5	神奈川県立博物館	鳥取県立博物館研究報告 第11号	1	"
奈良県観光	12	奈良県観光新聞社	民俗資料目録	1	"
浦和市立 郷土博物館々報 第3号	1	浦和市立博物館	稲城地名図	1	稲城市教育委員会
第17回 沖縄県統計年鑑	1	沖縄県企画部 統計課	多摩大工廠懐古	1	"
沖縄の統計 №13	1	"	昆虫資料目録2	1	鳥取県立博物館
大阪市立博物館々報	1	大阪市立博物館	開拓記念館研究年報 №3	1	北海道開拓記念館
沖縄の伝統工芸産業 調査報告書	1	沖縄開発庁 沖縄総合 事務局総務部 調査企画課	開拓記念館調査報告 №6	1	"
教育年報	4	"	全道高校生郷土作品集	1	"
韓国の歴史と風俗をたづねて	1	市立函館 博物館友の会	紀要第5号	1	石川県立郷土資料館
市立函館博物館 友の会々報 №32	1	"	市立旭川郷土博物館研究報告 第10号	1	市立旭川郷土博物館
「ことば」シリーズ 1 敬語	1	教育庁 文化課	博物館ニュース	9	東京国立博物館
研究紀要 №8	2	武蔵野美術大学	長野県信濃美術館館報	1	長野県信濃美術館
東京国立博物館紀要第9号	1	東京国立博物館	成川遺跡 埋蔵文化財発掘 調査報告第7号	1	文化庁文化財保護部
沖縄史の5人	1	琉球新報社	日本の箆筒	1	家具歴史館 家具保存協会
守禮之邦沖縄 (上) (下)	2	講談社	横須賀市博物館研究報告 第20号	1	横須賀市博物館
那覇市史通史篇第2巻	1	那覇市	" 雑報第19号	1	"
沖縄県史 23 民俗2	1	"	野方中原遺跡	1	福岡市教育委員会
神奈県の富士講	1	神奈川県教育庁 文化財、保護課	牟田多遺跡	1	"
神奈川県の文化財	1	"	板付周辺遺跡調査報告書	1	"
神奈川県文化財調査 報告書 第36集	1	神奈川県教育委員会	相原古墳書	1	"
国及び県指定文化財総目録	1	"	宝満尾遺跡	1	"
神奈川県社会教育要覧	1	"	琉球、日本、中国、朝鮮 ^{年代} 対照表	1	沖縄県教育委員会
神奈川県文化財 実態調査目録	1	"	傳承文化第8号	1	成城大学民俗学 研究室
中地区民俗資料調査報告書	1	"	野田の板碑	1	野田市郷土博物館
足柄地区民俗資料 調査報告書 (2)	1	"	伊平屋列島文化誌	1	仲田清英
アンドリュウ・ワイエス展	1	京都国立近代美術館	資料図録	1	郵政省通信博物館
国立科学博物館研究報告	1	国立科学博物館	石橋美術館々報 №18	1	石橋美術館
南風原村史	1	南風原村	福井県博物館第1号	1	福井県博物館 協議会

協議会々報 第2号	1	福井県博物館協議会	市立美術報だより	3	鹿児島市立美術館
博物館研究	4	日本博物館協会	グラフィックイメージ 74	1	京都国立近代美術館
機関部落誌	1	宮平契福	議会時報第9号	1	県議会事務局
博物館館報	1	佐賀県立博物館	開拓記念館だより №2	1	北海道開拓記念館
佐賀県立博物館年報	1	〃	なりた №10	1	千葉県成田市成田山霊光館(史料館)
首里城跡およびその周辺の復元について	1	沖縄建築士会	東京都の自然第2号	1	東京都高尾自然科学博物館
歴史資料館収蔵資料目録	1	福島県文化センター	高倉と祭場	1	酒井卯作
人類科学 26	1	日本宗教学会	国華 第972号	1	国華社 水尾比呂志
自然科学と博物館	1	国立科学博物館	琉球大学教育学部紀要 第16集 一部・二部	2	琉球大学教育学部
歴史と博物館	1	日本学会事務センター	琉球大学教育学部紀要 第17集 一部・二部	2	〃
研究資料第六集 離島調査報告書	1	宮崎県総合博物館	みる・つくる・かたる	2	千葉県立美術館
昭和48年度研究紀要	1	〃	市立旭川郷土博物館々報	1	旭川郷土博物館
モンキー №133	1	日本センキーセンター 附属博物館	神奈川県博物館協会々報 第31号	1	神奈川県博物館協会
昭和48年度年報	1	長崎県立美術館	神奈川県博物館協会概要	1	〃
秋田県立博物館設立準備だより	1	秋田県教育庁文化課	昭和48年度北海道立美術館年報	1	北海道美術館
山口県の博物館	1	山口県博物館協会	友の会だより(創刊号)	1	北海道立美術館 友の会
長崎県立美術館だより	1	長崎県立美術館	国立科学博物館研究報告	1	国立科学博物館
ブリジストン美術館々報 22	1	ブリジストン美術館	沖縄の工芸	1	京都国立近代美術館
北海道と近代洋画シリーズ	1	林竹治郎展実行委員会	ふくおか文化 №26	1	福岡県文化会館
縄文文化	1	北海道開拓記念館	第2回収蔵美術品展	1	〃
北海道開拓記念館だより №1~№3	1	〃	青森県郷土館だより №11	1	青森県郷土館
沖縄文化研究 1	1	法政大学 沖縄文化研究所	沖縄民俗	1	琉球放送
染織と生活	2	染織と生活社	古照遺跡	1	松山市教育委員会
群馬県立博物館研究報告 大合村の手工業 第九集	1	群馬県博物館	長隆寺跡調査報告書	1	〃
群馬県立博物館研究報告 東吹上遺跡 第八集	1	〃	国立科学博物専改第7号	1	国立科学博物館
群馬県立博物館々報第16号	1	群馬県立博物館	奥別府の自然	1	別府市教育委員会
足軽廻と陣笠	1	埼玉県立博物館	〃 (付図)	1	〃
鹿児島県明治百年記念館 建設調査だより	2	鹿児島県庁内明治百年記念館建設調査室	秋の特別展 日本キリシタン美術	1	サントリー美術館
茨城県歴史だより	1	茨城県歴史館	奴国展 稲と青銅の弥生王国	1	夕刊フクニチ新聞社
福井市立郷土歴史館 物々館報	1	福井市立郷土歴史館	北海道開拓記念だより	1	北海道開拓記念館

沖縄の伝説	1	源 武 雄	岡山県の原始, 古代	1	岡山県博物館
京の社寺名匠屋	1	京都国立博物館	東宮ノ尾古墳群	1	北九州市教育委員会
図録石翁展	1	千葉県立安房博物館	30年目の記録 沖縄の声	1	安慶田 ツル
東京都青ヶ島 (離島生活) の研究	1	酒井卯作	岡垣の自然誌 第14号 松陰	1	遠賀郡自然を守る会 石井 邦一
日本国有鉄道百年史	1	財団法人交通協力団	てんまでんじん	2	大阪天満宮社務所
九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書	1	福岡県教育委員会	郷土と博物館	1	鳥取県立博物館
天神山貝塚	1	志摩町教育委員会	八重山文化 第2号	1	東京, 八重山文化研究会
浦和市立郷土博物館々報 第4号	1	浦和市立郷土博物館	沖縄の統計 No.19	1	企画調整部統計課
北海道立 青函トンネル記念館だより	1	北海道立青函トンネル記念館	県史部の民俗 II	1	神奈川県博物館
伊丹俳諧と鬼貫	1	伊丹市立博物館	日本の民俗 (沖縄)	1	第一法規
神奈川県立博物館年報	1	神奈川県立博物館	奈良時代の文化	1	滋賀県教育委員会
史料館報 第21号	1	東京国文学研究資料館	近江人の消息	1	"
台湾の民具	1	埼玉県立博物館	沖縄県史 10 沖縄戦記録	1	沖縄県教育委員会
東北の美術	1	"	沖縄県史 7 移 民	1	"
美術工芸誌 用と美 No.13	1	用と美の会	交通科学館だより No.8	1	交通科学館
久留米市文化財調査報告書 第5集	1	久留米市教育委員会	北海道開拓記念会だより	1	北海道開拓記念館
" 第6集	1	"	博物館館報	3	佐賀県立博物館
中隅山古墳群第8集	1	"	横須賀市博物館雑報	1	横須賀市博物館
琉球の平等所捕物控	1	琉球文庫	那覇市史 (資料編)	1	那覇市役所
須藤利一 異国船来琉記	1	法政大学出版局	夏子陽使琉球録 (下)	1	沖縄県立図書館
龍泉 2月号~9月号	8	集	周煌琉球国志略 (中)	1	"
九州縦貫道関係埋蔵文化財調査報告書 (本文編)	1	福岡県教育委員会	美術名鑑 昭和50年版	1	美術公論社
" (付図)	1	"	図録 日本刀展 (製作工程と作品)	1	千葉県立安房博物館
" (図版編)	1	"	季刊科学の眼 自然科学と博物館	1	国立科学博物館
館 報 I	1	山形大学附属郷土博物館	P T A 指導者研究集会	1	沖縄県教育委員会
沖縄関係雑誌記事索引 (人文, 社会, 編)	1	琉大附属図書館	婦人国内研修	1	"
美術院紀要	1	京都国立博物館	東急油査 マリンパーク水族館年報	1	東急油査 マリンパーク
沖縄の伝統工芸について 民芸ブームにおける	5	労働商工部 伝統工芸課	八重山文化研究会ニュース No.11	1	東京, 八重山文化研究会
博物館だより	2	埼玉県立博物館	日本学術会議 九州, 沖縄地方区 ニュース	3	九州, 沖縄地方区事務室
八重山美術展	1	八重山美術展	国立科学博物館 研究報告	1	国立科学博物館

彰考館蔵 水戸徳川家名宝展	1	徳川美術館	沖縄県立図書館要覧	1	沖縄県立図書館
季刊邦楽 特集 宮城道雄のすべて	1	邦楽社	雄飛 第31号	2	沖縄県海外協会長 平田 忠義氏
〃 三味線いまむかし	1	〃	沖縄経済の振興開発について	1	教育庁総務課
徳之島採集手帳	1	徳之島郷土研究会	今後の賃上げ問題について	1	〃
青森県立郷土館報第1号	1	青森県立郷土館	昭和48年度 京都市青年科学センター報告	1	京都市青年科学 センター
印度更紗	1	紫紅社	あゆみ 第6号 5周年記念特集	1	〃
第9版 東京国際版画ビエン ナーレ展	1	京都国立近代美術館	沖縄の統計 No.20	1	企画調整統計課
北海道美術館友の会だより 第2号	1	北海道美術館	沖縄経済連通信	1	沖縄経済 農業協同組合
沖縄 昭和48年度 教育年報	2	沖縄県教育委員会	サントリー美術館 回展の 清方(その三)	1	サントリー美術館
日本の歴史(7) 武家の勝利	1	株式会社 集英社	東京芸術大学 芸術資料館 年報	1	東京芸術大学
沖縄一千年史 索引	1	琉球文化社	市立旭川郷土博物館年報 東恩納寛博先生 著作論文目録	1	旭川市立 旭川郷土博物館
みんなの県政	2	沖縄県 企画調整部広報課	沖縄の統計 No.18	1	沖縄県立図書館
千葉県立 安房博物館報(第6号)	1	千葉県立 安房博物館	博物館あんない	1	企画調整部 統計資料係
「小林雪岱展」展示品目録	1	埼玉県立博物館	大阪市立博物館報 No.13	1	大阪市立博物館
博物館報 No.25 肥前名刀展特集号	1	佐賀県立博物館	木の民具	2	〃
昭和48年度 京都国立博物館 年報	1	京都国立博物館	沖縄漆芸史年表 No.7	2	沖縄県立 伝統工芸指導所
陸奥 東北歴史資料 館報 第1号	1	東北歴史資料館	サントリー美術館 サントリー75展	1	サントリー美術館
描かれた房総 開館記念特別展	1	千葉県立博物館	国東のほとけ	1	国東町歴史民俗 資料館
沖縄の統計 No.21	1	沖縄県企画調整部 統計課	自治おきなわ	4	沖縄県町村会
図書館年報 1972年度 S 47 〃 S 48 〃	1	琉球大学附属図書館	熊本史学 第44号	1	熊本史学
ひめじひろいある記	1	山本邦 文芸事務所	海洋博だより	1	沖縄国際 海洋博協会局
たかはま 〃	1	〃	海洋博ニュース 25号	1	〃
さかい 〃	1	〃	第1回 北海道秀作美術展	1	北海道教育委員会
かいなん 〃	1	〃	西之表市立博物館だよりNo.1	1	市立種子島博物館
ふるさと紀行手づくりの美	1	東海テレビ 事業株式会社	琉球方言 12,13号	1	琉大方言クラブ
(仮称) 名古屋市博物館 (準備年報)	1	名古屋市役所	大和 民俗展	1	奈良県立 民俗博物館
沖縄県の教育 昭和49年度	4	沖縄県教育委員会	奈良県立 民俗博物館概要書	1	〃
博物館通信 ⑧	1	平塚市博物館 建設準備室	寄贈民俗資料分類目録	1	〃
民俗博物館だより	2	奈良県立民俗博物館	大宰府 大宰府天満宮史料 巻九	1	大宰府 天満宮
歴史と博物館	1	日本学会事務センター	神奈川県の民家 - 足柄地方	1	神奈川県教育庁

要覧 創刊号	1	沖縄県立 糸満青年の家	正木美術館 出品目録	13	正木美術館
水と人間 創刊号	1	琵琶湖問題研究機構	現代メキシコ美術館	1	京都国立近代美術館
琉球列島の染織について 第1・2報	2	鹿児島大 教育部 助教授 小林孝子	サントリー美術館 第41号	1	サントリー美術館
南日本の衣料について 第二報	1	〃	沖縄の歌と踊り ⑧	1	月刊沖縄社
琉球列島の染織について 第3報	1	〃	那覇市史だより	4	那覇市史編集室
南日本の衣料について 第三報	1	〃	茨城県歴史館報 ②	1	茨城県歴史館
休養着の製作をめくって	1	〃	沖縄の声, 本土の声 第15号	1	名護市 安慶田ツル
炭鉱「ヤマ」の移りかわり	1	北海道開拓記念館	九州の古瓦と寺院	1	九州歴史資料館
青森県立 郷土館だより №12	1	青森県立郷土館	九州歴史資料館 開館記念展示目録	1	〃
名古屋市博物館(仮称) 建設準備 ニュース	1	名古屋市教育委員会	大宰府史跡	1	〃
安房博物館報	1	千葉県立 安房博物館	九州歴史資料館 47,48年度	2	〃
北九州市立美術館	1	北九州市立美術館	九州所在 中国, 朝鮮の仏 教美術遺品展	1	〃
中華人民共和国漢唐壁画展	1	〃			

沖繩県立博物館協議会委員

学識経験者	照屋寛祐 外間政彰	教育庁文化課長 那覇市史編集室長
学校教育関係者	福地昭昭 田港朝昭 安次富長昭	沖縄県教職員組合書記長 琉球大学教育学部教授 琉球大学教育学部教授
社会教育関係者	宮里悦実 岸本利実 松村実実 池宮城秀意	沖縄婦人会連合会長 県議会文教厚生委員会委員長 沖縄タイムス社長 琉球新報会長

博物館職員

館長	外間正幸	
庶務	新崎善清	庶務係長 主事 主事 主事 技師 用務員
	座喜味よし	
	下地和子	
	仲松正子	
	黒島倬盛	
学芸	与那嶺善盛	(考古・歴史)
	新田重清	(民俗・書跡)
	上江洲均	(絵画・陶磁器)
	宮城篤正	(自然・石彫)
	大城逸朗	(染織・木彫)
渡名喜明		

※ 職員 の 異 動 (昭和50年5月31日現在)

退職 与儀ウシ (昭和49年3月31日付)

転出 津波古久子 (昭和49年4月1日付 沖縄工業高校へ)

武富千賀子 (" " 教育庁福利課へ)

転入 下地和子 (昭和49年4月1日付 教育庁総務課より)

与那嶺善盛 (" " 奥武山総合競技場より)

大城逸朗 (昭和49年6月10日付 小禄高校より)

沖繩県立博物館

沖 縄 県 立 博 物 館

沖縄県立博物館年報No. 8

那覇市首里大中町1の1

電話 0988-32-2243

1975年 8月 1日発行

印刷 文 進 印 刷

那覇市上間567

電話 33-2531・55-3838